

横浜国際総合競技場ボランティアだより

INTERNATIONAL
STADIUM
YOKOHAMA

ボランティア

2002年
10月26日発行
秋号(季刊)
Vol. 10

ボランティア【ポルトガル語で舵とり】、わ【輪、和】を意味します

西田場長 ゴールドカードで「退場」

横浜国際総合競技場の正に「顔」として初代場長を務められた西田善夫氏が、半年間の任期を残して9月30日に辞任されました。4年前、ボランティア一年生だった私たちにいつも多くのご高配をいただきまして、お忙しい中を、毎年の研修会・交流会にご出席頂いて励ましの言葉を頂戴して参りました。ありがとうございました。競技場退任に際して、ご多忙の中を本誌に私たちボランティアへのお別れのお言葉を頂きました。



記者会見の取材は慣れていましたが、インタビューを受ける立場は初体験でした。9月30日の記者会見で退任を表明しました。来年3月まで任期が在りましたがロスタイムを残してピッチを離れる心境です。会社なら「退社」、NHKは放送局でしたから「退局」でした。競技場を辞めるのは「退場」でしょうか……。レッドカードの代わりに沢山のカードやメールを頂きました。夕方にはNHKテレビで、私が中田市長から感謝状を受けるシーンや会見の様子を放映していたそうです。最近では家の近くで散歩中の初老のご夫婦から「ワールドカップ、ご苦労様でした」と声を掛けられます。私にというより横浜に掛けられた「ご苦労さま」でしょう。

「いい決勝戦が見たい」そのためには選手がベストのプレーが出来るピッチを造ろう...これが「最高の舞台造り」の出発点でした。競技場のスタッフの共通の目的、流行の言葉

で言えばモチベーションです。1年前のコンフェデ杯の準決勝、1時間48ミリの集中豪雨に横浜のピッチは耐えませんでした。試合終了直後、FIFAのブラッター会長は私の手を両手で掴んで「ノーウオーターポロ(水球にならなかった)アメージング(素晴らしい)」と叫んでいました。そして1年、ブラジル対ドイツ、W杯史上初の顔合わせの決勝戦で横浜は世界の注目を集めました。「横浜の一人勝ち」といわれる強烈な印象を残した閉幕でした。W杯で一番印象に残ったシーンはと問われれば、私は6月11日夜のアイルランドとサウジアラビアの試合、それも終わったあとのアイルランドのサポーターと横浜ボランティアの別れの場面を上げましょう。満足したサポーターと運営を支えたボランティアの心からの喜びを表すハイタッチがいつまでも続きました。スポーツの交流はピッチの上だけではなくと痛感しながら場内カメラの映像に見入りました。

あの風景を、いつか、また一緒に見ましょう。

西田 善夫



西田場長 ありがとうございました

「ボランティア」創刊号には「ボランティアの原点」のお言葉をお寄せ頂きました。その年の第1回「真夏の午後の交流会」では「西瓜割りの妙技」を見せて頂きました。昨年の交流会の「W杯ゲーム」では幅広い博学ぶりに驚かされました。ワールドカップ決勝戦の日には、大混雑の中を態々ボランティアルームにお出でになられ、励ましの言葉を頂きました。いつも、時の経つのを忘れてしまうような楽しく素敵なお話をいただき本当に有難うございました。「ボランティアの原点.....与えられた仕事ではなく、何をやりたいか、何をやれるかを考える。そして、その実現のための手段を考える。」私達は、ご指導いただいた多くのことを心の糧としてこれからも横浜国際総合競技場の活動に励んでまいります。私達にとっては、これからもずっと「西田場長」と呼ばせて頂きたいと存じます。西田場長、12月の「トヨタカップ」そして第3回「交流会」には是非競技場にお越し下さい。お待ちしております。

横浜国際総合競技場 ボランティア一同

特集：障害者スポーツ ～誰でも楽しめるサッカー！～



決勝戦： イングランド VS オランダ

音でキック！ バンパーでシュート!! 注目高まる障害者サッカー

吉田 祥子 (U)

INAS - FID サッカー世界選手権大会の開かれた8月4日、障害者サッカーを応援する「サッカートーキングライブ」がラポールであった。音を追って蹴る「視覚障害者サッカー」、バンパーでシュートする「電動車椅子サッカー」、脳性マヒの選手が7人でプレーする「肢体不自由者サッカー (CPサッカー)」、そして「知的障害者サッカー」。それぞれに合ったやり方で、サッカーを楽しんでいる選手、指導者らが集まり、活動状況やルールを説明、そのあと岡田武史元日本代表監督らによるトークセッションがあった。障害者サッカーの関係者が集まってこのような話し合いをするのは、おそらく初めてだという。

電動車椅子サッカーは、ボールがとても大きく、直径50センチ。体育館のバスケットボールのコートでプレーする。1チーム4人。車椅子の先端に取り付けた専用のバンパーと車椅子の側面を使ってボールをコントロールし、ゴールを目指す。レバー操作による電動車椅子の動きだけでプレーできるので、筋ジストロフィー、脳性マヒ、頸椎損傷など、重い障害のある人たちが参加、活躍している。「自分たちにもできる！ スポーツを楽しめる！ これをまず皆に知らせたい」と、よこはまクラッカーズのプレーヤー野田拓郎さん。競技場にも車椅子でよく観戦に来る方だ。20年前大阪で考案され、いま全国に約50チーム。第8回全国大会は10月6日、横浜で開催された。

視覚障害者サッカーは、アジアでは韓国が最も盛んだそうだ。W杯を前に、日韓交流が始まり、日本にもチームが一つ生まれて、9月初め、ベトナムを加えた3カ国による「アジア大会」が神戸市で開かれた。音の出るボールを蹴り、声を掛け合ってプレー。ゴール裏ではコーチが声を出して位置を知らせる。選手は5人（うちキーパーは弱視または晴眼者）「サッカーは伴走なしで走れる。一人で思いっきり走る喜びを知った」と選手は言う。安全のため、プレー中はヘッドバンドをつけている。

「サッカーでは障害者のほうが体をフルに使っていると思う」と語ったのはゲストの木村和司さん。玉木正之さんは「だれもができるスポーツ」という方向を目指せば、障害者サッカーは決して少数派ではない。高齢化社会へのメリットは小さくないはず。一般は文部科学省、障害者スポーツは厚生労働省というような分け方でいいのか。元日本代表監督の岡田武史氏は「障害者サッカーの応援は、まず知ることから。これからもイベントなどに出ていきたい」と話していた。

W杯をきっかけに、障害のある人びとの間でもサッカーは広がりを見せているようで、メディアも目を向けている。NHKで「シュートはワールドカップばかりじゃない」と題して9月21日に90分のテレビ特集を組み、ろうの女性のフットサル・チームなども紹介された。



INAS-FID
優勝に歓喜するイングランド代表選手

INAS-FID 優勝トロフィー



* 3面では、先ほど行われた知的障害者サッカーと電動車イスサッカーの大会をご紹介します。

もうひとつの世界カップ 「知的障害者サッカー大会」

2002 INAS-FID サッカー世界選手権 日本大会 は、イングランドの優勝で幕を閉じた。もう一つの世界カップと呼ばれるこの大会は、イギリス大会より増えて16カ国が参加し、8月8日の「日本 VS ロシア」戦から始まり、8月25日の「オランダ VS イングランド」の決勝戦まで、東京と神奈川の会場（競技場）で行われた。

三ツ沢、大和、そして、決勝の地＝横浜の3会場で活動した。三ツ沢と大和では、チーム対応を担当した。チームの到着が予定より早くてあわただしく業務が始まり、選手が会場を出て行くまでの間、結構ハードな業務だった。ゲーム中は、ゲームを観戦し応援しながら休息することができた。

知的障害者のサッカー大会を見たのは、今年の「日本 VS 韓国」の親善試合が初めてだった。この試合を見た感じでは、「日本もなかなかやるなあ」と思っていたが、大和会場で見た「ロシア VS マリ」の試合では、世界のレベルの高さを見せ付けられた感じであった。アジアのチームには可愛いそうな位、世界のレベルは高かった。日本は10位に終わった。「知的障害者の・・・」であるが、サッカーを見ている限り、そんなことは全然感じられない。ただ、試合が始まるまでの練習の場所や方法を説明してあっても、早くボールを蹴りたいのかルールを忘れて(?)ボールを蹴っている選手もいたが、声をかけると素直に応じてくれた。

決勝戦は、2万5千人くらいの観客が集ってくれて、ホッとした。そして、やはり予想通り、見ごたえのある試合だった(らしい)。この決勝戦の担当業務は、「メインスタンド側の案内誘導」で、全チームの選手席やVIP席があって混雑していたので、試合の様子を見ている余裕はなかった。

この大会のボランティアを経験した人たちの多くが、「ワールドカップより大変だったけど、楽しくできた」と



感じたことだろう。周りの環境が整えられたワールドカップのように、与えられた環境で自分の仕事をしているより、自分たちで何をすべきかを考える部分が多いこの大会が、達成感を強く感じ、やりがいのある活動だったと思えた。大会グッズもいろいろ販売されていたが、なんとかTシャツが買えただけで他のグッズは買えなかった。これだけが、ちょっと心残りである。売上金は、「大会運営費に充てられる」と聞いている。大会に携わった皆さんお疲れ様でした。

(U 緒方)



W杯と変わらぬ声援が日本代表に送られた

電動車椅子サッカー

10月5～6日、「第8回日本電動車椅子サッカー選手権大会」が横浜国際総合競技場に隣接している横浜ラポールで開催されました。重度身体障害者の競技で全国から予選で勝ち進んできた16チームが熱戦を繰り広げ、終日応援と歓声が会場いっぱい湧いていました。今大会開催地は「W杯決勝戦会場」＝横浜が選ばれ、会場には運営ボラのYさんやW杯・INAS-FIDで見かけたボランティアの方々が多く活動しており、お互い気軽に交わす挨拶に通じ合うものがあり、ここでもまだW杯が脈脈と生き続けていると感じました。

この電動車椅子でサッカーを楽しんでいるという競技のことを知ったのは今年の8月でした。通常温かな表情の彼らがプレーではボールを中心に激しくぶつかり合い、巧みな操作でボールコントロールする。この時彼らの姿は生き生きとしており、ボールを奪われた時、ゴールになった時、彼らの目には喜びと悔しさが表れる。スポーツを楽しむと言うより真剣に取り組んでいる姿に、他では味わった事のない感動が全身を支配した。そんな思いをしました。その後何度か電動椅子サッカーを観に来ています。が伝わってくる新鮮さは変わりません。そして逆に元気を貰ってしまいます。5年前に耳の不自由な方々と親善サッカーをしたことがあります。昨秋の「日韓障害サッカーフェスティバル」。そしてこの前の「INAS-FID サッカー世界選手権大会」。また9月中頃にNHKから色々な障害を持った方々がサッカーを楽しんでいると言うテレビ放送。障害者のサッカーに身近に接したのがほんの一年前からです。



今大会は多くの若い人が応援に駆けつけ、観覧席から声援が絶え間無く響いて白熱した試合が展開されました。敗退した選手達にも全力を出し切った満足感が見られ、彼らが発したスポーツの清々しさにまた新たな感動と元気を受けました。同時に、彼らを支えておられる方々の活動に深い尊敬の気持ちが起こります。そして電動車椅子の彼らにも緑のピッチ上のサッカーを見せてやりたいものと思いつつ閉会を迎えました。

(U 佐藤)



<提案> 子供達を横国へ

菊地喜代勝(U)

「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」今日も笑顔で頑張りましょう！さあ一日の始まりだ。今日の活動はJグループ〔美化・各グループの応援〕。総数15名全員が初めてだと言う。だが、3年半のベテラン、なんの心配もない。頭を集め相談する。時間・コース等を決め、自己紹介をして始めるかー。開門後の1回目はゲートの外を重点的に、2回目は4-5Fを、ハーフタイム前も4-5F、ハーフタイム後は4~7F、4km位歩いたかな？たいしたゴミもない。

途中、プログラムの売場を聞かれる。お客様にどんな印象を与えただろうか、ちょっと心配だ。

少し早めの終了だが、まあいいか。じっくりと反省会をやる。全員に一声ずつ発言をお願いすると色々な発言がありOKだ。「今日はおつかれさまでした」。交通費をいただきリーダー反省会をやって帰路につく。

だが、なにかスッキリしない。なんだろう…。

Nさんと先日話をした時、「ボランティア席が作りたいんだよなー」と言う。ボランティアの力を集め、子供達をW杯決勝戦の地へ招待するのです。競技場を案内し、ブラジル選手のサインを見せ、F・マリノスの選手と握手をし、試合を応援するのです。夢の続きを見るのです。子供達は目を丸くして喜ぶ事でしょう。そして1名でもサッカーファンが増え、もしや招待者の中からJ選手が生まれでもしたら、どうですか。

チケットの購入資金は交通費の残りを皆様より寄付していただくのです。できる限りの募金でよいのです。どの位の資金が集まるかわかりませんが、資金内で招待すればよいと思います。マリノスさんをお願いしてチケットを格安で売ってもらえるとありがたいですね。この案を実現するには、いくつもの問題をクリアしなければなりません。横国ボラの力を集めれば、どうにかならないと思いますか？検討をお願いします。

菊地さん、ありがとうございました。

この提案について、ボランティアの皆さんはいかがお考えでしょうか？

どうぞ皆さんのご意見を編集部宛てお寄せください。

ボランチわ編集部

紙上見学ツアー

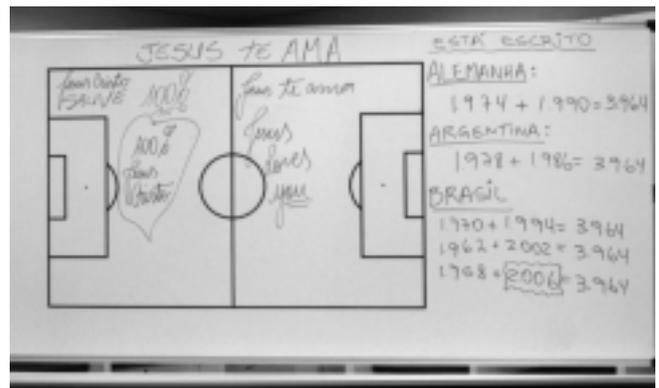
Q W杯以後の横浜国際総合競技場の見学ツアーは、以前と比べてなにか変わったところがあるでしょうか？

A 見学ルートはW杯前と同じになりましたが、説明する内容とお見せするものがいろいろ変わりましたよ！まず、お話す内容は、それぞれのガイドさんのW杯への思い入れによって一人一人違いますね。感動したシーンを織り交ぜながら上手に説明する人もいますし、ショップで売っている芝生がどの部分の芝生なのかという説明に力を入れている人もいます。でも、話がぐっと乗ってくる場面はやはりウォーミングアップルームではないでしょうか。なぜって、大会中の写真やブラジルチームの残した白板の板書があるからです。世界に一つしかないものなんですから説明にも力が入ります。(大会直後、ロッカールームにあった選手のサイン目当てに来場されたお客様には、板書だけでは物足りなかったようですが)

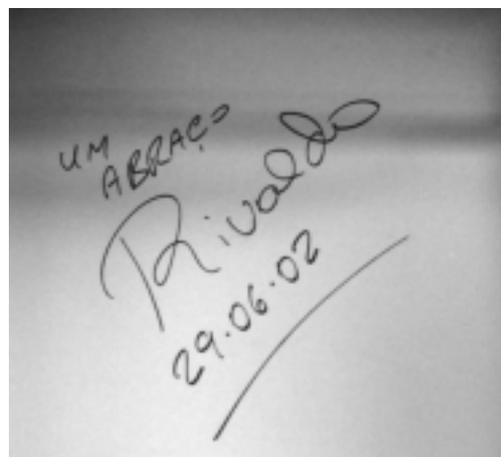
次に盛り上がるのが、フィールドへ上がる階段です。大会テーマ曲に送られての「選手入場」に、ピッチに向かうお客様の気分は、これまでに増してどなたも高揚されますね。最後に、VIP席に座っていただき、W杯で天皇、皇后両陛下や小泉首相が着席されていたことなどをご説明すると、お客様は思いがけない至福のひとつをしばし楽しめるのです。

ガイドをやっていて本当に良かったと思う瞬間です。

田中 悦子(T)



勝利の方程式(ブラジル代表チームのホワイト・ボード)



ロッカーに残されたリバウド選手(ブラジル代表)のサイン

「師走の午後の交流会」 第3回ボランティア研修・交流会開催のお知らせ

お待たせしました。W杯で順送りになっていた皆様お待ちかねの横浜国際総合競技場運営・見学ボランティア交流会を12月7日(土)に開催いたします。ワールドカップの苦労話、後期F・マリノスの成績?、ブラジル選手のサインボード、カーンの手形、いろいろ積もる話題を杯を片手に楽しく語り合しましょう。ゲストには「西田前場長」もお見えになる予定です。只今お楽しみ抽選会の豪華賞品を募集中です。忘年会シーズンですがこの交流会を最優先に是非ご参加ください。



日時 12月7日(土) 13時 (13時より研修会、15時より交流会の予定)
 場所 競技場301号会議室 貴方の秘蔵の美酒や腕自慢のご馳走などを是非
 会費 1000円(飲み物・軽食など) 皆さんにご披露ください。大歓迎します
 申込 同封の申し込みハガキに記入のうえ 飲物・軽食の準備の都合上、直前キャンセルの
 11月13日までに返送下さい 方は、必ず競技場事務局まで連絡してください。

会議報告

平成14年度 第3回運営ボランティアリーダー役員会議

日時: 10月12日(土)10時~12時 ボランティアルーム
 出席者: (事務局)村本・宮田、(役員)8名

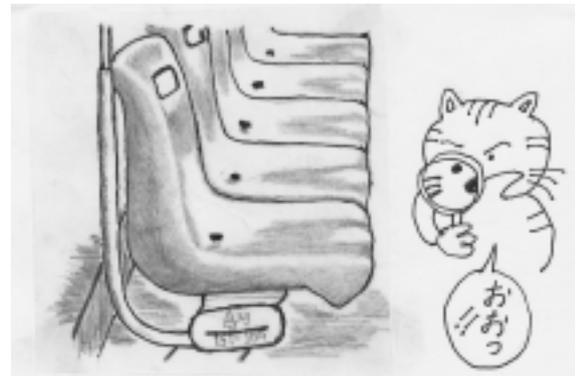
- 議題: 1. 運営ボランティア活動マニュアル作成
 Jリーグだけでなく全ての活動の標準化を図る目的で、活動方針・目的及び留意点等を明確化する。
 平成15年3月発行予定
2. 運営・見学合同研修会&交流会開催企画
 日時: 平成14年12月7日(土)
 研修会 13:00~14:30、交流会 15:00~17:00
 会費: 1人 1,000円
 講演: 木村副場長。その後意見交換を行います。
 交流会準備のため、準備委員を募集します。
3. 次回会議は11月17日(日)の予定



予告!
 あのオリバー・カーンの「手型」を
 交流会で特別展示!

ブラジルロックー見学もあります。カメラのご用意を...

競技場ア・ラ・カルト



一般席シート

耐久性に優れた高密度ポリエチレン樹脂ブロー成形。1層の観客席は、スタンドの段床高さとして17度の傾斜角度に合せたシート背もたれ角度にしている。また、背もたれ下部を大きくえぐり、着席者が腰を引き易くし、人の出入りがスムーズに行える。加えて、カップホルダーの設置などサービスにも配慮している。

2層席は30度の傾斜角度により、後部に座った人の膝が背中に当たらない様に5cm高い39cmの背高のハイバックで、また座面との背の角度が立った形にしている。

OFFSIDE・おかしも

オフサイド。次なる組み立てを

この項は、ボランティア活動に於いて事前に迷惑になる行為を無くそうとの考えで、題名も緩やかにオフサイドとして掲載されてきました。しかし過去の内容を見ると罰を受けない反則・オフサイドではなく、イエローかレッドカードに当たるものでした。1回目はドタキャンを取り上げました。無断欠席はまだまだ皆無とは言えませんが、欠席連絡は十分浸透してきたと言えます。活動までが長いので、この間諸々の都合が入ってくるのは当然のことです。

さて、そこで活動断念の連絡が行われ1次事務手続きは出来ましたが、大切なのは2次事務として欠員補充の在り方です。キャンセルと補充体制は表裏一体で成り立っています。従って要員確保が充実していれば、次なる組み立てが容易であると言えます。私達は活動の抽選洩れした時、それで活動は無しとしないで他の人のフォローと回り回って自分の為にとの考えで、登録側に回れるよう心掛けて行かなければと思います。勿論、要員登録済でもキャンセルは容認されます。さあ、次の目標は補欠要員登録へステップアップしましょう。

② いんふおーめーしょん

事務局だより

1998年の開設以来からご尽力いただいた西田場長が、9月末日をもって勇退されました。W杯では、場長の陣頭指揮のもとロシア戦の日本代表初勝利、ブラジルの史上5度目の優勝を演出した「最高の舞台」をつくることができました。これからは競技場職員は、場長の教えを胸に秘め「裏方として、スポーツを支える喜び」を感じながら、創造力のある運営を目指してまいります。

さて、12月はボランティアの交流会、研修会が予定されています。昨年度以上にボランティアの自主的な運営を目指して、現在、内容を計画中です。皆さんの数多いご協力とご出席をお待ちしています。

イベントスケジュール

月	日	イベント名
11月	10日	第24回全国サッカー祭典陸上競技大会
	16日	Jリーグ 横浜 vs 市原
	17日	第23回神奈川県幼稚園サッカー大会 フリーマーケット
	23日	Jリーグ 横浜 vs 名古屋
12月	1日	第12回横浜国際ちびっこ駅伝大会
	3日	第23回トヨタカップ
	15日	フリーマーケット

* 年末年始の休業日 12月29日～1月3日

* 太字は、ボランティア活動予定日です。

11月～12月のスタジアムツアー開催日(11時・13時・14時・15時 スタート)

11月 6日(水) 7日(木) 8日(金) 11日(月) 14日(木) 15日(金) 18日(月) 21日(木) 22日(金) 25日(月)
12月 5日(木) 6日(金) 11日(水) 12日(木) 13日(金) 18日(水) 19日(木) 20日(金) 26日(木) 27日(金)

9月の活動では見学ボランティアの方に運営の活動を応援していただきました。

スーパー陸上2002 (9/16) 佐藤健二さん・江尻由美子さん・渥美祐子さん・山縣知子さん・田中悦子さん・小室実さん・三浦小枝子さん・浅見圭一さん・宮原晶子さん・中俣容子さん

J1 コンサドーレ札幌戦(9/18) 平川元美さん・荻井真理子さん・小室実さん **皆さん、お疲れさまでした!**

サッカー部だより

W杯が終わって暫らくたちましたが、サッカー部の熱はまだ冷めません。W杯後は JAWOC 横浜と横浜市のボランティアの方々も加わって、練習中にも多くの声や笑いが飛び交うようになりました。活動は月2回・週末を中心に行なっていますが、8月と9月には、JAWOC 本部ボランティアとの練習試合を行ないました。男女とも互角の戦いで、試合は白熱したものになりました。これから寒くなりますが比較的暖かい日中に活動を行なっていく予定なので、皆さんの参加をお待ちしています。 (T 栗原 芳範)

11月の練習 11/3(日) 17:00～19:00 11/17(日) 15:00～17:00 場所:みなとみらいサッカーパーク

★ 編集後記 ★

W杯、INASが終了し、久しぶりのJリーグ活動に戻った矢先、突然四年半の間務められた西田場長の退任通達。9月28日の活動終了後、場長よりボランティアにご挨拶があり、「W杯決勝で舞った折鶴の感動!」「アイランドサポーターとボランティアとのハイタッチでの交流」などのお話がありました。西田場長とは、いつの日か、感動するような試合の後にハイタッチで再会することを楽しみにしています。(編集担当:橋口正)

編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 横浜国際総合競技場内

ボランティア会報誌『ボランちわ』編集部 Tel:045(477)5006 Fax:045(477)5002